

金沢区地区別データ集

# データde富岡第三

DATA de KANAZAWA

## 目次

1. 地区の概況———1
2. 町丁別人口世帯の動向———2
3. 地域の施設等の分布状況———3
4. 年齢別人口と人口移動———4
5. 世帯の状況と居住歴———6
6. 地区の特徴と動向———7



金沢区幸せお届け大使  
ぼたんちゃん

令和7年1月発行

金沢区地域振興課地域力推進担当

# 1. 地区の概況

図1 地区の位置

\*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成。

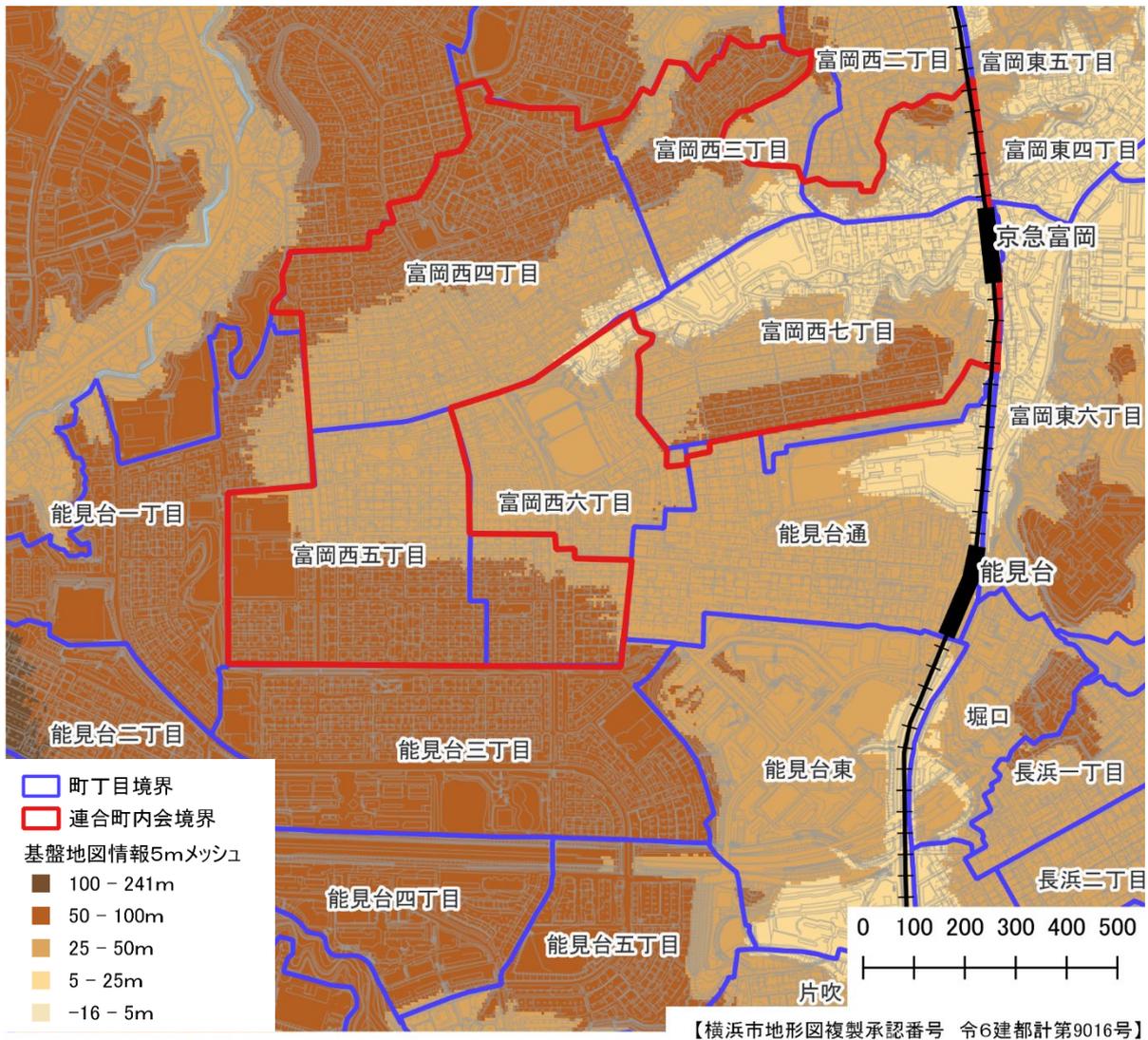


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

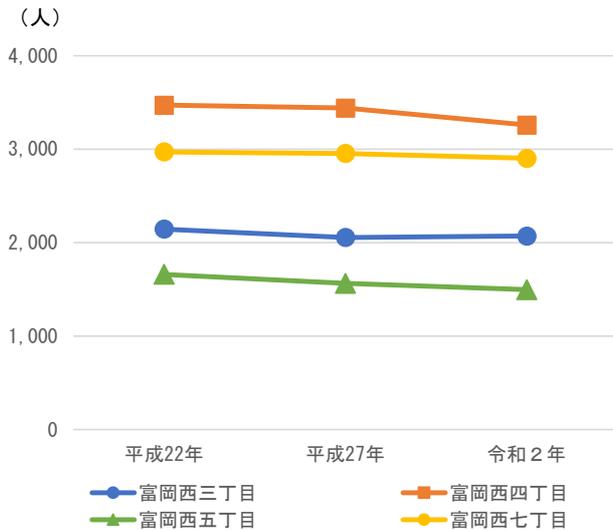
	平成22年	平成27年	令和2年	平成22～ 27年 増減数	平成27～ 令和2年 増減数	平成27年 比率	令和2年 比率	令和2年 金沢区比率	令和2年 横浜市比率
人口 (人)	10,254	10,017	9,733	▲ 237	▲ 284	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳 (人)	1,246	1,128	1,072	▲ 118	▲ 56	11.3	11.0	10.8	11.7
(内0～4歳) (人)	315	326	270	11	▲ 56	3.3	2.8	3.7	4.4
15～64歳人口 (人)	6,234	5,874	5,524	▲ 360	▲ 350	58.6	56.8	57.4	61.3
(内20～24歳) (人)	463	443	503	▲ 20	60	4.4	5.2	5.5	5.3
(内25～39歳) (人)	1,670	1,398	1,176	▲ 272	▲ 222	14.0	12.1	13.6	16.5
65歳以上人口 (人)	2,734	2,980	2,982	246	2	29.7	30.6	29.5	24.4
(内65～74歳) (人)	1,343	1,376	1,287	33	▲ 89	13.7	13.2	14.4	11.6
(内75～84歳) (人)	1,098	1,171	1,121	73	▲ 50	11.7	11.5	10.5	8.8
(内85歳以上) (人)	293	433	574	140	141	4.3	5.9	4.5	4.0
世帯数 (世帯)	4,201	4,167	4,268	▲ 34	101	-	-	-	-
平均世帯規模 (人/世帯)	2.44	2.40	2.28	-	-	-	-	-	-

\*国勢調査による(各年10月1日現在)。

\*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

## 2. 町丁別人口世帯の動向 \*「国勢調査」による（各年10月1日現在）。

図2 町丁別人口の動向



富岡第三地区には、令和2年10月現在、9,733人が暮らしています。世帯数は、4,268世帯、平均世帯規模は、2.28人/世帯です。(表1参照)

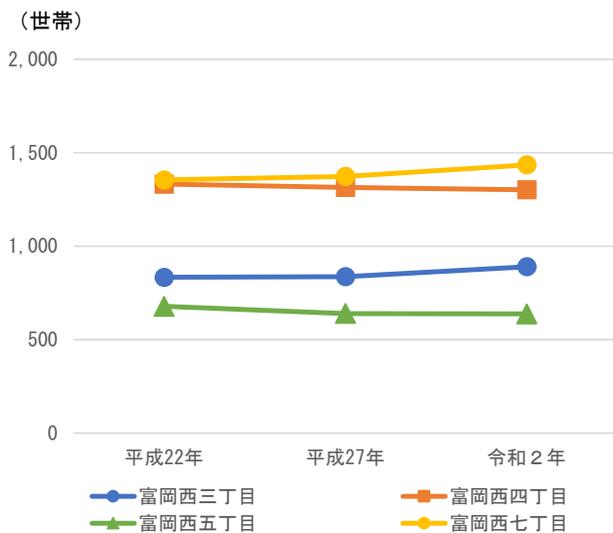
地区全体としては、平成22～令和2年の期間で見ると、人口は緩やかに減少しています。一方、世帯数は平成22年から平成27年にはわずかに減少しましたが、令和2年には増加しています。(表1参照)

世帯規模は縮小する傾向が続いており、平成22年の2.44人/世帯から令和2年には2.28人/世帯となっています。(表1参照)

令和2年時点の65歳以上の人口比率（高齢化率）は、30.6%で横浜市全体（24.4%）や、金沢区全体（29.5%）をともに上回っています。

0～14歳の人口（年少人口）、15～64歳の人口（生産年齢人口）は減少し比率も低下しました。25～39歳の子育て世代の減少が目立ちます。(表1参照)

図3 町丁別世帯数の動向

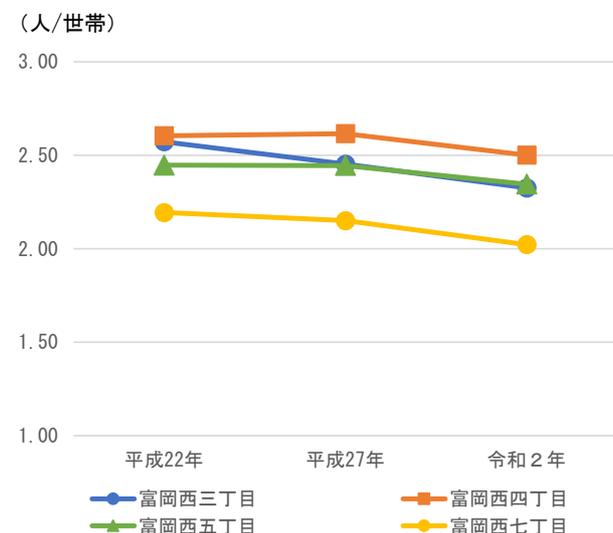


富岡第三地区には4町丁が含まれています。人口は、いずれの町丁とも概ね安定しています。富岡西三丁目、七丁目で世帯数がやや増加する傾向が見られます。(図2,3参照)

平均世帯規模は4町丁とも、平成22～令和2年の期間は減少傾向が見られます。なかでも富岡西三丁目は減少の幅が大きくなっています。(図4参照)

京急富岡駅に近い富岡西七丁目では平均世帯規模が小さく2.00人/世帯になっており、地区内で差が見られます。(図4,表1参照)

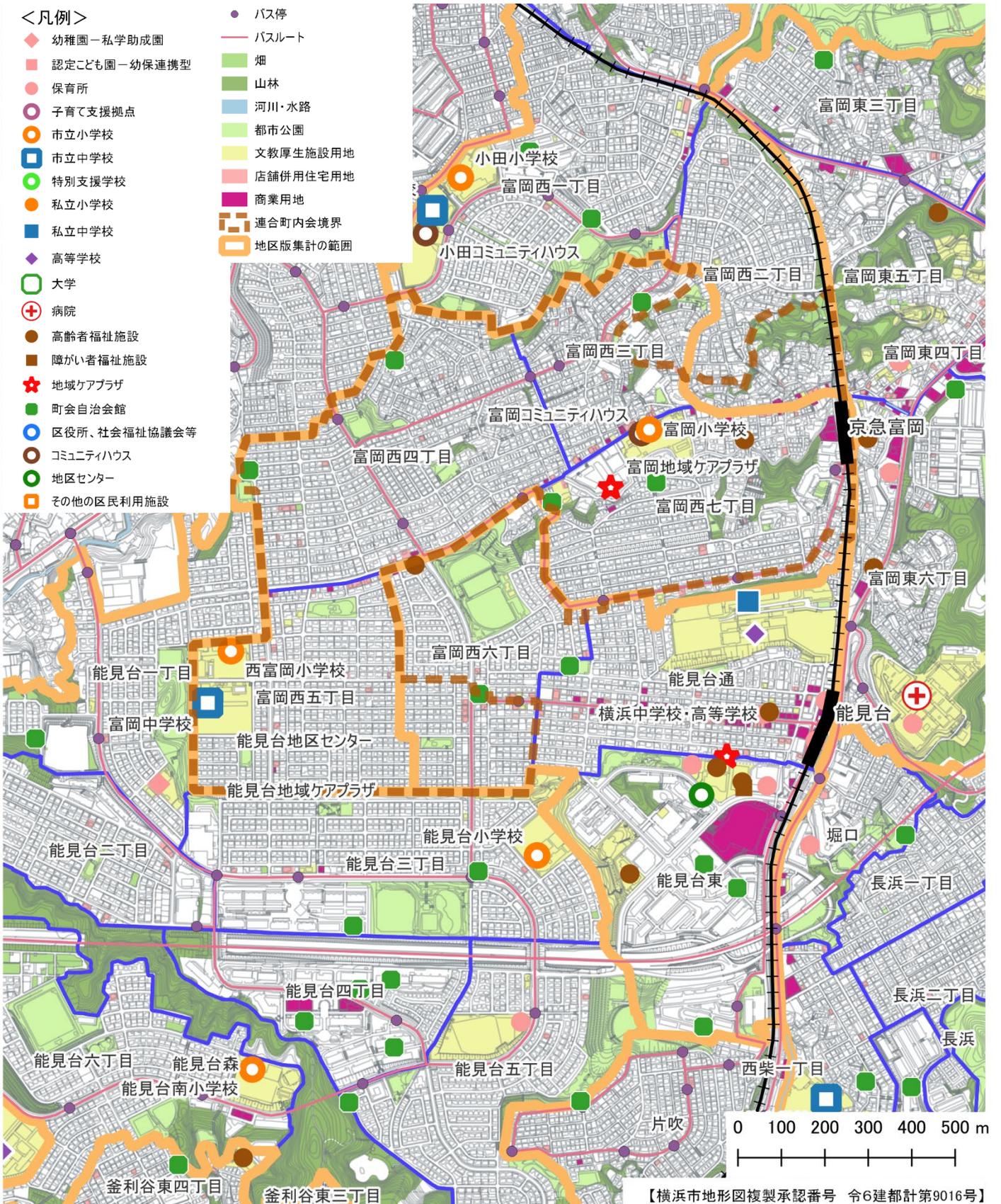
図4 町丁別平均世帯規模の動向



### 3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

\*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。  
 \*施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



### 4. 年齢別人口と人口移動

\*年齢別人口は国勢調査による（各年10月1日現在）。  
 \*移動人口は平成30～令和5年の人口移動集計結果による。

図6 年齢5歳別の人口の変化

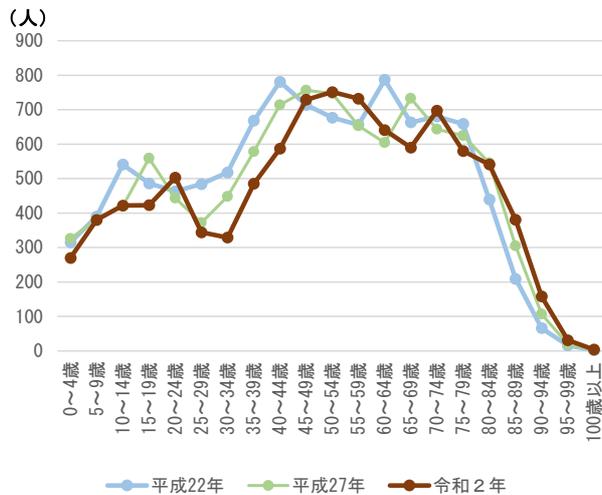
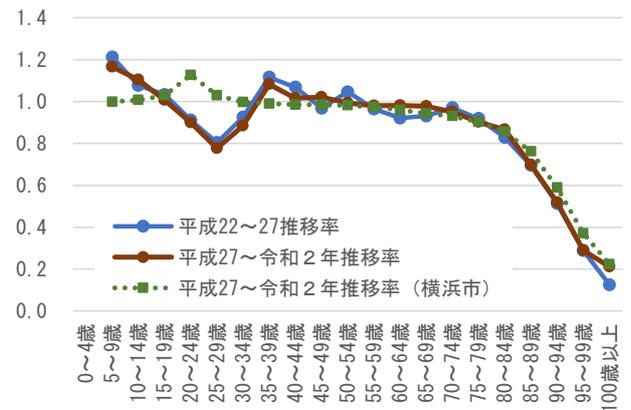
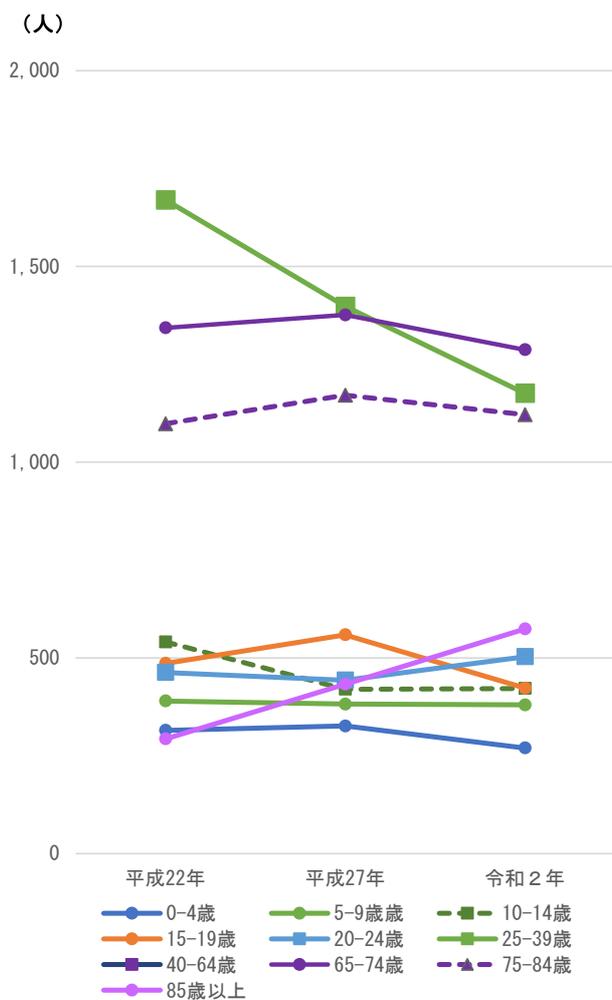


図7 年齢5歳別の人口の推移率



\*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合。

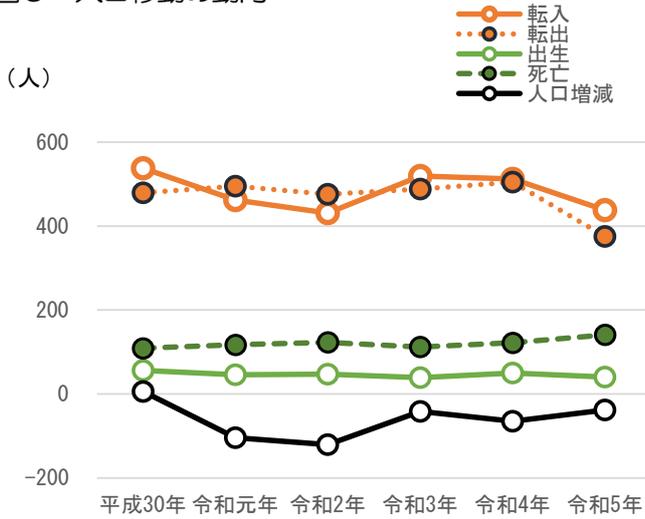
図8 年齢別人口の変化



令和2年の富岡第三地区の年齢別人口は、45～59歳の年代が最も多く5歳別人口が概ね750人前後となっています。(図6参照)

推移率をみると、平成22～27年、平成27～令和2年で大きな変化は見られていません。30歳代後半～40歳代前半と、14歳以下の推移率が1.0を上回っており転入増加する傾向があります。一方、20歳代～30歳代前半には転出による減少傾向がみられます。(図7参照)

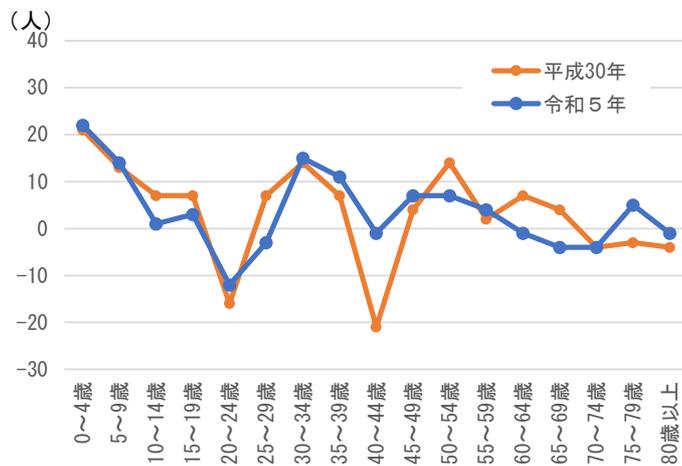
図9 人口移動の動向



平成30年から令和5年の人口移動の動向をみると、毎年400～600人程度の人口の転出入があります。令和5年は転出が400人を下回り、その分人口が増加しました。(図9参照)

平成30年と令和5年の年齢5歳別社会移動人口の動向をみると、平成30年、令和5年ともに20歳代前半に転出超過の傾向がみられます。また、平成30年には40代前半に転出が多いことがわかります。平成30年、令和5年ともに14歳以下と30歳代の転入が多く、子育て世帯の転入が多いと考えられます。(図10参照)

図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



## 5. 世帯の状況と居住歴

\*各年「国勢調査」結果による(各年10月1日現在)。

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

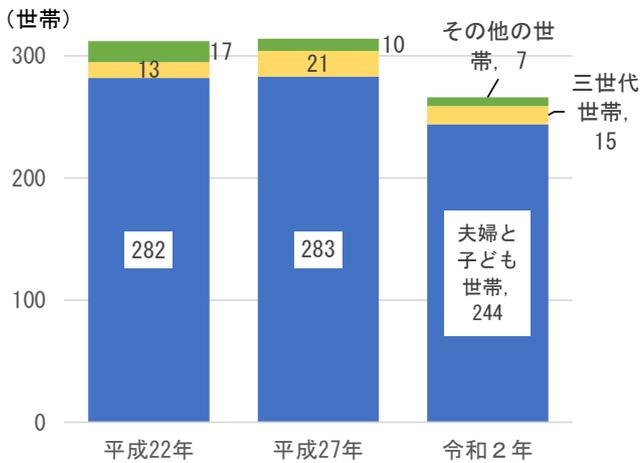


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

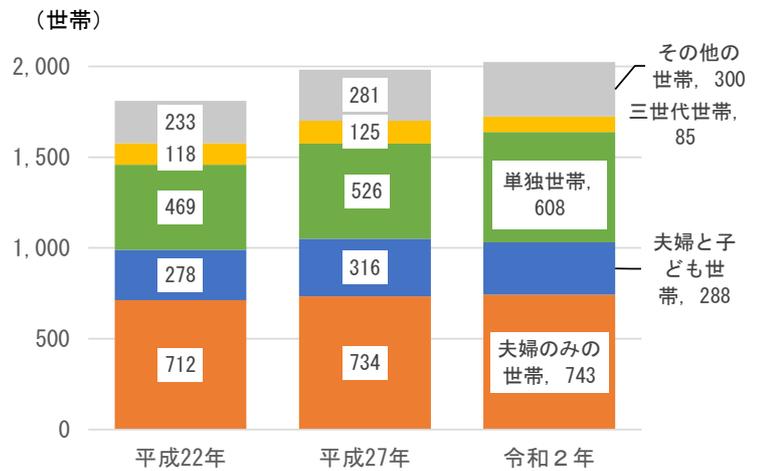


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

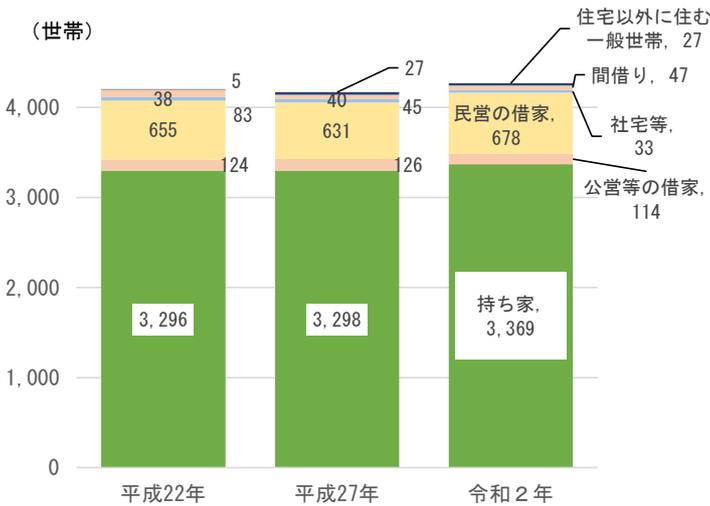


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合 (R2)

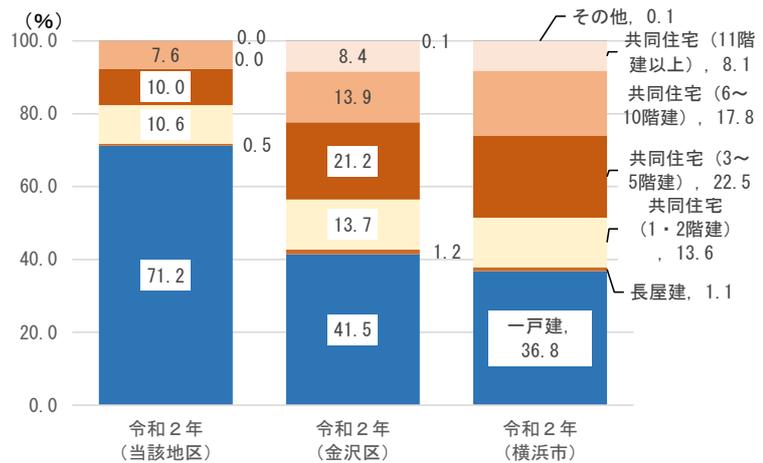


図 15 規模別世帯の動向

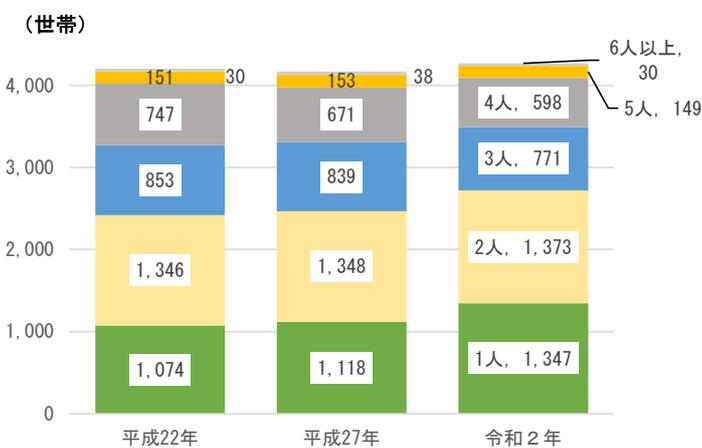
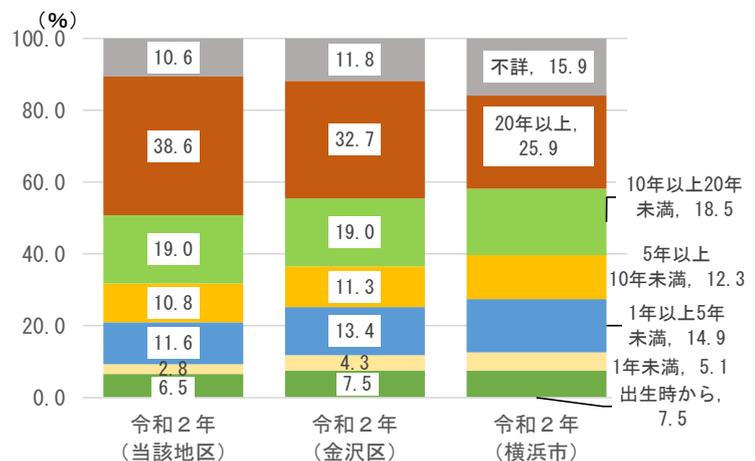


図 16 居住歴別人口の割合 (R2)



## 6. 地区の特徴と動向

富岡第三地区は、京急富岡駅・能見台駅から内陸側に向けて丘に形成された住宅地です。

地区の東端に京急富岡駅があります。

平成22年から平成27年は、6歳未満の子どものいる世帯は横ばいでしたが、令和2年には減少しました。6歳未満の子どものいる世帯(266世帯)の91.7%が核家族になっている事がわかります。(図11参照)

65歳以上の高齢者のいる世帯は増加傾向が見られます。令和2年の65歳以上の高齢者のいる世帯2,024世帯のうち、36.7%が夫婦のみの世帯、30.0%が高齢者の単独世帯です。これら高齢者だけで暮らしている世帯は、高齢者のいる世帯全体の66.7%を占めています。(図12参照)

住宅の所有関係別では、令和2年は持家に住んでいる世帯が3,369世帯で最も多く、増加傾向にあります。民間の借家に住む世帯は678世帯あります。社宅(給与住宅)に住む世帯が33世帯あります。(図13参照)

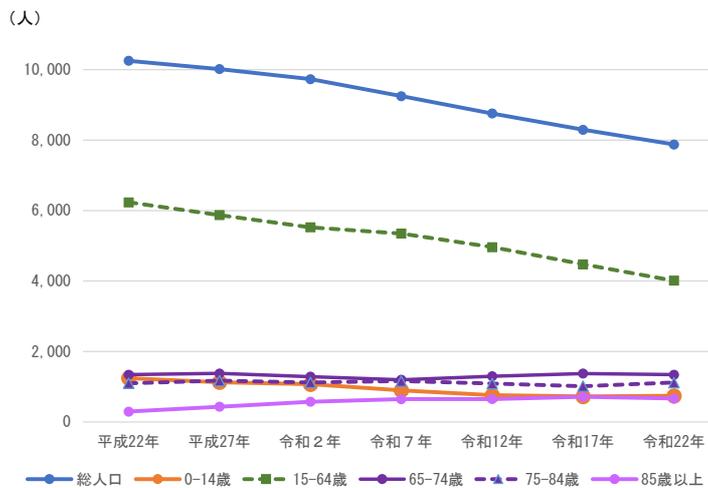
令和2年の住宅の建て方別の世帯の割合をみると、一戸建住宅が中心で71.2%の世帯が戸建て住宅に住んでおり、戸建て住宅が中心の地区であることがわかります。金沢区全体の一戸建住宅の割合(41.5%)と比べると29.7ポイント高くなっています。(図14参照)

富岡第三地区は金沢区全体と同様に、居住期間が長い人の割合が高い傾向が見られます。令和2年時点で、居住期間が「20年以上」(38.6%)は金沢区全体の32.7%を5.9ポイント上回っています。(図16参照)

人口全体の動向と推計をみると、平成22年から令和2年は人口が減少し、令和7年以降も同様に減少するものと推計されています。(図17参照)

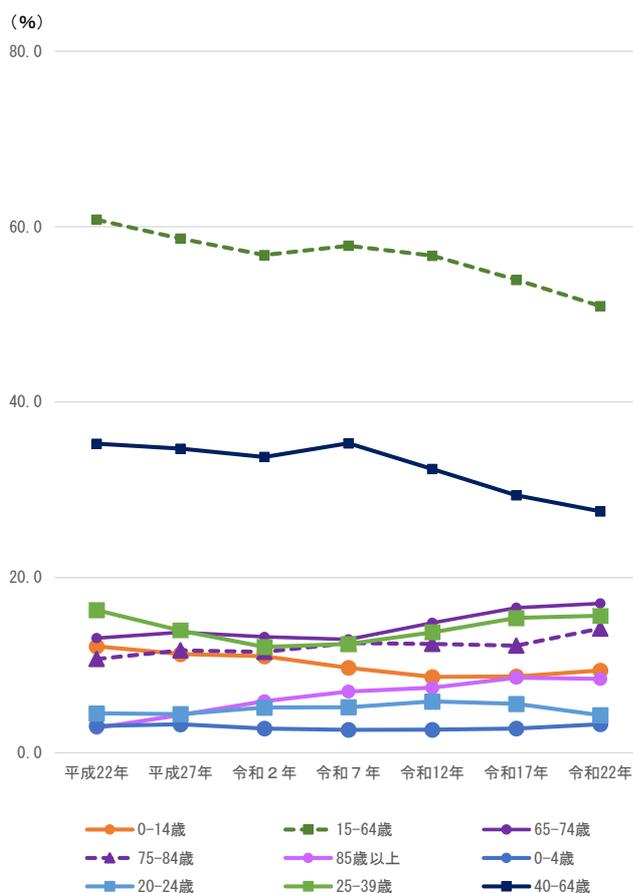
今後は高齢者人口の増加が続き、年少人口、生産年齢人口は減少するなど、人口構造に変化が見られると推計されます。(図17,18参照)

図17 人口の動向と推計



※平成22年～令和2年は国勢調査の実績値。令和7年以降は、国土技術政策総合研究所による推計値(国勢調査を用いたコーホート変化率法)。

図18 人口の動向と推計 年齢別比率



※平成22年～令和2年は国勢調査の実績値。令和7年以降は、国土技術政策総合研究所による推計値(国勢調査を用いたコーホート変化率法)。